

じゃんぽ!



←遊ぶ人数を数えて、同じ数ずつにすると、ちょうどいいことに気が付きました。



↑同じチームで作戦を立ててから始めると、楽しい! 「えいえいおー!」で仲間意識がぐーんと上がります。



→同じ物を使いたくなかった時、怒るだけでなく、どうするといいいのか考えて、“じゃんけん”をすることに決めました。



「逃げる人が足りない…。」「逃げる人と鬼の人、おんなじ数にしたらいいいやん。」「じゃあ、誰か誘ってこよう!」これは、鬼ごっこをしようとしていた時の子供たちの言葉です。動物バスケットをして遊んでいた時に、同時に椅子に座りどちらかが移動しなければなりません。そんなとき、「じゃあ、じゃんけんを決めればいいやん。」「勝った方が座れるってことね。」
このように、子供たちは自分たちでどうするといいいのかを考え、思いを出し合い遊びを進めていこうとする姿が見られます。先生に、「～だから…しなさい。」と言われて遊ぶのではなく、自分たちが遊ぶ中で感じたことに対して、考えたり工夫したりする力は、とても大切です。こういった力は“遊びを創る力”に繋がっていきます。まだまだ、自分たちで進めていくのは難しいけれど、自分たちが一生懸命考えたことが遊びになっていく楽しさを感じています。



「ボールに当たったら外野に行くの。外野っていうのはね…。」



「そうそう! いい感じ!」

「なつめ組も入ってきて!」そんな誘いをたいよう組から受け、ドッジボールに入るようになったなつめ組。どうやら大人V.S子供の試合をしているとのこと。なつめ組にとって初めて遊ぶドッジボールのルールを、すぐにたいよう組の子が、優しく教えてくれます。ボールをキャッチすると、「すごい! 上手だね。」とほめてくれました。

またある時は、年長さんの作る石鹸の泡クリームを見て“私も作りたい!”と憧れを抱いたAさんが、年長さんの泡クリーム教室に入門。「ツノが立つくらい混ぜるの。」というコツを教えてくださいました。ツノとは何だ!?と分からないAさんに、実際に見せながら教えてもらい、無事ツノの立つ泡クリームを作ることができました。

年長さんの遊びに刺激を受け、自分たちの遊びに取り込みます。

